まちの“あつまりっこ”

№２１
発行月：令和４年８月
発行者：長寿介護課高齢者支援係

新型コロナウイルス感染防止のため、様々な活動に制限が出ています。これにより、現場は不安や悩みを抱えますが、同時に新たな創意工夫が生まれています。「まちのあつまりっこ」では、そうしたコロナに負けない地域のつながりやパワーを発信し、地域で役立てていただく一助となればと願っております。

シルバー人材センターのボランティア活動

紫波町シルバー人材センターの会員の皆さんは年２回、オガールエリア周辺や城山をはじめとする公共施設等で、草刈り、草取りや植木の手入れなどを行うボランティア活動を行っています。

今年の１回目は、６月１５日（水）に実施され、コロナ過ですが、53 人の参加となりました。

いつもはセンターで決められている活動に見合った賃金をいただいているということですが、今回は、無償のボランティアということなので、参加した皆さんにお話を伺いました。

７０代のＳさん。低木の根の周りの草取りを楽しそうにやっていました。今回のボランティアに参加されたきっかけをお聞きすると「シルバーでいつもお世話になっているので、恩返しのつもりで参加しています」と。

隣で同じように草取りをしている７０代の女性は入会して３年。「家で旦那さんと二人暮らし。空気のようなありがたい存在だが会話が少ない。体が丈夫なので少しでも誰かの役に立ちたいと思い、シルバー人材センターに入会しました。草取りや果樹農家の仕事を受けています」と話していました。

写真を撮りますと声をかけたら、並んでくださいました。皆さん、すてきな笑顔です！

入会する前は庭師だったＦさん（７５才）。家で何もしないよりはと入会しました。Ｆさんも仲間との交流を楽しみに働いています。

他の会員の皆さんも「働くところがあって幸せだし張り合いがある」、「恩返しという気持ちで働いている」、「体が続く限り働きたい」とおっしゃっていました。

Ｔさん（７４才）は定年後、家でじっとしているのもいやだったので、前職の仕事を活かして働けないかとある企業に聞きに行きましたが、６０才以上は無理と断られてしまいました。がっかりしましたがやっぱり働こうと思い、シルバー人材センターに入会しました。結果的には前職を活かせる仕事ではなかったのですが、シルバーの会員になって良かったと思っています。応募したところに就職していればシルバーより収入はあったかもしれないが、シルバーに入会し活動できたことによりかせぐだけでなく同世代の会員との交流もでき、人とのつながりの大切さを感じているそうです。

数年前に病が見つかり治療しながら働いていますが、不思議なことに元気で動くことができています。「会員の皆さんと働けるのが楽しい」とおだやかな笑顔を見せてくれました。

オガール職員は、「自分たちで草取りをするとなると人数も少なく、慣れない仕事なので時間がかかり、ここまできれいにできないと思う」と話していました。さらに、「無償ボランティアで活動していただいているのでとてもありがたいです」と、こちらもシルバーさんの活動に対し、「笑顔」で感謝を伝えていました。

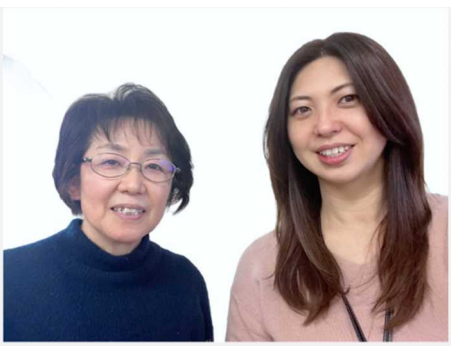
【編集後記】

町では、住民同士が気軽に集まり、交流を通した「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げてもらうため、住民自らが作る「つどいの場」を応援しています。こうした「つどい」は、お互いを気遣い、介護サービスに頼らず自宅で暮らし続けるための重要な鍵となります。そういった「つながり」を「お宝」として発信していきます。

皆さんの地域の「つながり」情報を教えてください。

長寿介護課高齢者支援係　中村　富士子

☎672-2111(内 1232)



生活支援コーディネーター

佐藤由美子　　菅波久美子